

道東エリア 4月29日

道東エリア

病院の安全管理 大切さを再認識

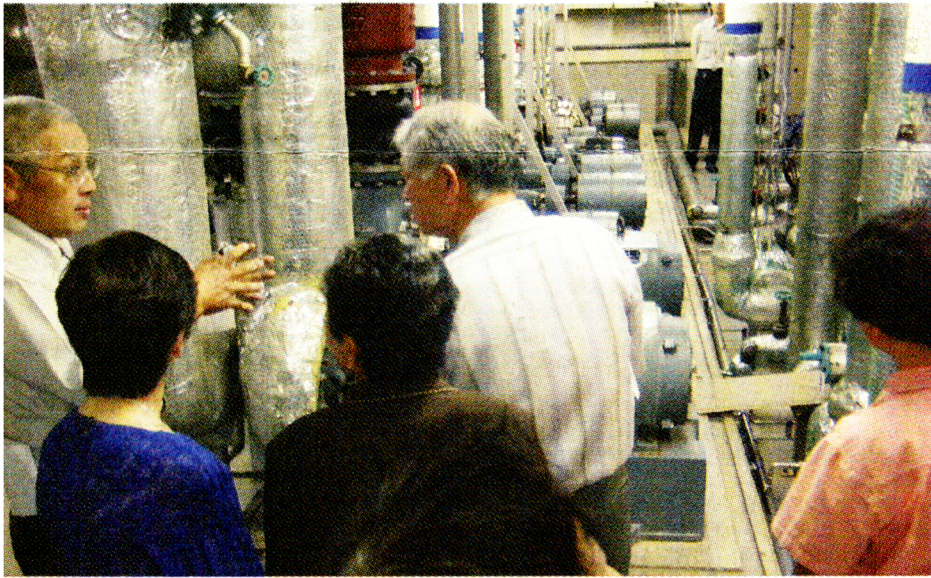
北見赤十字病院支援する会



北見赤十字病院の元患者や市民などをつくる「北見赤十字病院の明日を考え支援する会」（谷川勝男代表）では、7月14日に院内の見学会と「病院の現状について」吉田病院長との懇談会「写真上」を開き、電力や水道といったライフラインについて安全管理の知識を深めた。

この見学会は今年1月に続いて2回目、今回は10人の会員が参加した。見学した設備室は、一般の職員の立ち入りが禁止さ

れているうえ、関係者のセキュリティも厳重になされており、案内した職員も初めて入ったというほど。室内には水道設備等があり、同病院の建物より低い位置にある常呂川の深い所からくみ上げている独自の井戸がある。数年前に発生した北見市内の大規模断水の際には、ここから一般市民へも水を提供するなどした。また、敷地内には停電



時の対応のための予備の自家発電装置があり、再び電力が供給されるまで絶えず作動するようにになっている。こうした設備を管理する責任者の役割も重要であり、見学した会員たちは「誰にでもできる仕事ではない」と話しながら、人の生命を預かる病院の危機管理の重要性を再認識していた。

谷川代表は「北見市民のほとんどの人たちは、日赤がなくならないと思っています。また、病気が完治すれば病院に対して無関心になる人もいます。今回は見学会だからこそ分かってもらえた部分もあり、これからも見学の機会を設けたいと思っています」と話した。ほかにも今後の会の活動として、同病院の抱える課題などを市民とともに考えるフォーラムを企画していきたいとのこと。さらに機関紙を2〜3カ月間隔で発行し、利用者の体験などを紹介して同病院の支援に努めていくという。